

令和 7 年度 事業報告

社会福祉法人 八幡福祉協会

全体事項

令和7年度は、いわゆる「2025年問題」として団塊の世代が全員75歳以上の後期高齢者に達し、超高齢社会の大きな節目を迎えた年となりました。

当法人におきましても、社会福祉法人としての責務を再認識し、法人理念のもと、入居者・利用者の意向を尊重した質の高いサービスの提供に取り組んでまいりました。

依然として生産年齢人口の減少に伴う人材不足に加え、不安定な世界情勢を背景とした物価高騰やエネルギーコストの上昇、さらには予測困難な自然災害への対応など、事業運営を取り巻く環境は混迷を極めております。

このような状況下において、当法人は「人材の確保・定着」と「安全・安心な生活環境の整備」を最優先課題として取り組んでまいりました。

昨年度導入した非常用発電機に加え、今年度は調理室の改修による給食体制の刷新など、ハード面の強化を継続いたしました。一方で、備蓄品のさらなる拡充や 職員の防災意識の向上については、依然として継続的な取り組みが必要な課題であると認識しております。

今後も、多様な人材が活躍できる職場環境を整えるとともに、ICT ツールの活用をさらに推進し、地域に根差した「安心の拠点」として、持続可能な事業運営とサービスの質向上に全力を尽くしてまいります。

1. 人材確保及び人材の育成等について

深刻化する人材不足に対し、「選ばれる職場づくり」と「多様な人材の確保・定着」を軸に、体制強化に努めました。

採用面では、介護部門において計画通り技能実習生3期生2名が着任したほか、長年の課題であった看護部門においても、常勤に準ずる勤務形態の非常勤職員を新たに確保し、医療連携体制を強化することができました。

人材不足が続く部署についても、継続して採用に努めてまいりましたが、年度内に退職者が発生するなど、職種による定着の難しさが改めて浮き彫りとなりました。この

点については、現場の負担軽減や環境改善に向けた大切な検討事項と捉え、次年度に向けてより働きやすい職場づくりに努めてまいります。

人材育成面では、1 期生を中心とした技能実習生が、後輩実習生にとっての良き模範となるまでに成長し、現場全体のサービスの質向上に繋がっております。あわせて、公正な評価制度に基づく定期面談を通じ、職員一人ひとりがやりがいを持って定着できる環境構築に努めました。

2. 環境整備について

施設開設から 36 年が経過し、老朽化対策と不安定な社会情勢下での防災力強化が急務となっています。今年度は入居者の安全と快適性を高めるため、以下の整備を推進しました。

防災・インフラ整備におきましては、補助金を活用し老朽化した受水槽等を更新いたしました。これにより断水時も飲料水や生活用水を確保できる体制を整えています。昨年度設置した非常用発電機による電力供給体制と合わせ、非常時でも自立して事業を継続できる環境を整備しました。あわせて、事業継続計画(BCP)の定期的な見直しや職員研修を継続し、福祉避難所としての機能維持に向けたソフト面の再点検にも努めました。

食事提供体制につきましては、令和 7 年 2 月より導入した「クックチル方式」を最大限活用するため、調理室の改修工事を完遂いたしました。これにより、衛生管理体制の強化と作業効率の向上を同時に実現し、より安全で安定した食事提供が可能となりました。

3. ICT 化の推進

入居者の安全確保と職員の負担軽減を加速させるため、昨年度導入した機器の定着化と新たなシステムの導入を進めました。

当初令和 8 年度以降に計画していた「ナースコールシステム」の更新を、補助金の活用、前倒しして実施しました。Wi-Fi 環境を効果的に活用することで導入費用を抑え

つつ、最新システムへの移行を実現したことで、緊急時における職員の迅速な対応と、入居者の皆様がより安心して過ごせる環境を整えました。また、全入居者のベッドに導入済みの「介護見守りロボット」については、夜間帯を中心とした見守りの質向上や巡回頻度の最適化に繋がり、職員の負担軽減に繋がっています。あわせて、Google Workspace による迅速な情報共有も日常業務に定着いたしました。

今後も、ICT を多角的に活用することで、データに基づいた質の高いケアの提供と、より一層働きやすい職場環境の構築を目指します。

今後も、ICT 活用やインフラ整備を通じて、入居者・利用者様がより安全で快適に過ごせる環境づくりに取り組み、あわせて、多様な人材が誇りを持って働ける職場を構築することで、地域に根差した「安心の拠点」としての役割を全うし、持続可能な社会福祉の実装に向けて全力を尽くしてまいります。

4. 役員会等の状況

① 評議員会の開催状況(評議員 7名)

開催年月日	出席者数	審 議 内 容
令和7年6月18日	6名 (監事2名)	① 令和6年度事業報告(案)について ② 令和6年度収支決算(案)について ③ 理事及び監事の選任について

② 理事会の開催状況(理事6名 監事2名)

開催年月日	出席者数	審 議 内 容
令和7年5月29日	5名 (監事2名)	① 令和6年度事業報告(案)について ② 令和6年度収支決算(案)について ③ 京都八勝館受水槽等改修工事の業者選定について ④ 評議員選任・解任委員会の委員の選任(案)について ⑤ 次期評議員の選任候補者(案)について ⑥ 次期理事の選任候補者(案)について

令和 7 年 6 月 18 日	6 名 (監事 2 名)	① 理事長及び業務執行理事の選任について
令和 7 年 11 月 19 日	6 名 (監事 2 名)	① 令和 7 年度 中間報告 ② 育児・介護休業等に関する規程の一部改正(案)について ③ 旅費規程の一部改正(案)について
令和 8 年 3 月 18 日	6 名 (監事 2 名)	① 令和 7 年度収支予算補正(案)について ② 令和 8 年度事業計画(案)について ③ 令和 8 年度収支予算(案)について ④ 令和 8 年度の昇給率及び賞与支給月等(案)について ⑤ 運営規程の一部改正(案)について ⑥ 第三者委員の選任について

③ 評議員選任・解任委員会の開催状況(委員 3 名)

開催年月日	出席者数	審 議 内 容
令和 7 年 5 月 29 日	3 名	① 次期評議員の選任(案)について

④ 監事監査の実施状況

令和 7 年 5 月 14 日、監事 2 名による監査を実施していただきました。その結果、事業報告は関連する法令及び通知に従い、当法人の事業の執行状況を正しく示し、適切に処理されていると認めていただきました。

5. その他の状況

① 衛生教育について(産業医講話)

年 月 日	参加人数	内容
令和 7 年 9 月 17 日	11 名	認知症について
令和 8 年 3 月 19 日	45 名	高齢者に多い眼の病気について

② 職員健康診断等

年 月 日	検診内容	受診者数
令和 7 年 9 月 26 日	職員健康診断(腰痛検診含む) ※当日未受診者(26 名)は、医療機関等 にて実施	47 名
令和 7 年 11 月 6 日～11 月 20 日	職員インフルエンザ予防接種	53 名
令和 8 年 3 月 18 日	腰痛検診	15 名
令和 8 年 3 月 10 日～3 月 15 日	職員健康診断(夜勤業務従事者)	26 名

③ 消防訓練等の実施状況

年 月 日	時 間	備 考
令和 7 年 6 月 18 日	10 : 00～	八幡市シェイクアウト訓練
令和 7 年 11 月 7 日	14 : 30～	昼間訓練(消防署立会い)
令和 8 年 3 月 26 日	14 : 30～	夜間想定訓練(自主訓練)

各事業所の事業報告

施設サービス事業所

特別養護老人ホーム・(介護予防)短期入所生活介護事業

新型コロナウイルス対策を徹底した結果、施設内感染ゼロを維持することができました。現在は対面での面会や、職員が同行しての外出を順次再開しており、コロナ禍以前の生活環境への回帰と、入居者様の生活の質(QOL)の向上に努めてまいりました。

こうした生活環境の整備と並行し、介護現場では前年度に続き、ICT 機器を活用したケアの質の向上と職員の負担軽減に取り組んでいます。特に今年度は、施設内の Wi-Fi 環境を活用したナースコールシステムを導入し、スマートフォンで全ての連絡を受け取れるようにしました。これにより、既存の介護記録システムともスムーズな連動が可能になり、どこにいても情報の確認や入力ができる

環境が整いました。「情報を確認し、駆けつけ、その場で記録する」という一連の動きがスマートフォン 1 台で完結するため、これまでの転記作業が大幅に減り、その分、入居者様お一人おひとりと向き合う時間をより多く確保することが可能となりました。

こうした端末の活用と併せて、職員同士のリアルタイムな連絡にはインカムを使用しています。今では現場に欠かせない連絡手段として定着しており、迅速な連携で業務がスムーズになっただけでなく、技能実習生にとっては、現場で実際に交わされる言葉に触れる貴重な機会にもなっており、日本語の習得や、お互いのスムーズな意思疎通を支える大きな助けとなっています。今後も、こうした ICT 機器の活用や連携をさらに深めることで、情報の共有をより円滑にし、さらなるケアの質の向上と、職員がゆとりを持って働ける環境づくりに全力で取り組んでまいります。

あわせて、ケアの質を根底から支える「人」の育成にも重点を置き、外部研修への積極的な参加を推進いたしました。職員を対象に「接遇マナー」「虐待防止」「スピーチロック(言葉の拘束)の解消」を軸とした研修を実施し、専門職として大切な心構えや基本の技術を、改めて見直す機会といたしました。これらの取り組みを通じて、職員が共通の認識を持って基本に忠実なケアを実践できる体制を整え、ご利用者がより安心・安全に過ごせる環境づくりに努めております。

こうした育成の取り組みが進む中、当施設のケアを支える大きな力となっているのが、共に働く技能実習生たちの成長です。技能実習生の 1 期生については、3 年目を迎え、今では日勤・夜勤ともに安心して業務を任せられる存在となりました。2 期生も夜勤業務に加わるなど着実に実力をつけており、さらに 11 月半ばからは 3 期生 2 名が着任し、計 6 名体制となりました。彼女たちが日本語と介護技術の習得に日々懸命に取り組む姿は、日本人職員にとっても大きな刺激や喜びとなっており、職場全体が共に成長できる良い循環が生まれています。

運営面におきましては、今年度の利用率は期中を通じて不安定な推移となりました。主な要因として、入居者の急な体調不良による入院が重なったことが挙げられます。これに加え、制度改定に伴う利用料の改定（負担増）が重なったことも、新規入居の調整や待機者の動向に影響を及ぼしました。次年度に向けては、入退院サイクルの迅速な把握と、改定後の価格設定に即した広報活動の強化を図り、利用率の安定化に努めてまいります。

短期入所におきましては、サービス需要の減少により、今年度も利用率は低調な推移となりました。そのような状況下においても、ご利用者が可能な限り在宅生活を継続できるよう、個々の意思に寄り添ったケアを提供し、当事業所での時間を楽しくお過ごしいただけるよう努めてまいりました。また、八幡市より依頼のあった緊急ショートステイ案件に対しても、迅速な受入れ態勢を整えて対応いたしました。結果として実利用には至りませんでした。行政との緊密な連携を図ることができ、緊急時の対応力を示す機会となりました。

一方で、在宅生活が限界に達していた、いわゆる「困難ケース」の2名につきましては、ご本人の心身状態やご家族の疲弊具合などを総合的に評価いたしました。その結果、在宅継続は困難と判断し、速やかに特別養護老人ホームへの入居へと繋げることができました。今後も地域のセーフティーネットとして、社会福祉法人の役割を全うできるよう、地域課題の解決に努めてまいります。

利用状況

○入居者入退所状況

退所者数 26名（施設看取り17名・入院先退所9名）

新規入所者数 23名（在宅4名 医療機関13名 老健6名）

特養 延人数 24,877人 89.7% 定員 76名（4月 70名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
特養延数	2,056	2,112	2,060	2,084	2,063	2,053	2,049	2,015	2,086	2,060	1,898	2,129
利用率	90.2	89.6	90.4	88.5	87.6	90.0	87.0	88.4	88.5	87.4	89.2	90.4

短期入所生活介護 延人数 791 人 27.1% 定員 8 名

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
SS 延数	73	88	48	53	54	52	93	75	73	63	57	62
SS 利用率	30.4	35.5	20.0	21.4	21.8	21.7	37.5	31.3	29.4	25.4	25.4	25.0

(延数=人・利用率=%)

研修(実習)受入状況

地域に開かれた施設づくりとして、京都八幡高校介護福祉課からの実習受け入れを予定しておりましたが、生徒数の減少という学校側の事情により、実施には至りませんでした。今後も地域の教育機関との連携を大切にし、次世代の介護人材育成に協力できる体制を維持してまいります。

行事等実施状況

4 月のお花見を皮切りに、夏祭り、運動会、年忘れ会、餅つきなど、季節を感じていただける機会を設けました。

開催日	行事名	開催日	行事名
4 月 3 日	お花見(ベランダにて)	12 月 22 日	年忘れ会
8 月 29 日	夏祭り	12 月 26 日	餅つき
10 月 17 日	運動会		

入居者検診状況

定期的な胸部レントゲン撮影に加え、インフルエンザ予防接種を実施し、感染症予防と早期発見に努めました。なお、新型コロナウイルスワクチンについては、今年度の施設内一斉接種実績はございません。

年 月 日	検診内容	受診者数
9 月 19 日	胸部レントゲン撮影	64 名
11 月 21 日～12 月 9 日	インフルエンザ予防接種	61 名
	新型コロナウイルスワクチン接種	0 名

在宅サービスセンター

【(介護予防) 通所介護事業所 / デイサービス】

当事業所におきましては、利用者が住み慣れた地域で安心して生活を継続できるように、個々のニーズに寄り添った「居心地の良い空間作り」と、ご家族の負担軽減に向けた支援に注力してまいりました。特に昨年度の課題であったレクリエーションの充実については、本年度よりカラオケ等の音楽プログラムやボランティアの招致、個別の創作活動を強化いたしました。これらの取り組みにより、利用者様からは「楽しみが増えた」との声を数多くいただくなど、満足度調査においても概ね高い評価をいただくことができました。

また、デイサービス利用中の様子を把握したいというご家族からのご要望にお応えし、次年度は見学会の開催を計画しております。日々の活動を直接ご覧いただく機会を設けることで、より大きな安心感を持って在宅生活を継続していただけるよう、信頼関係の構築に努めてまいります。

本年度は外部機関による「福祉サービス第三者評価」を受診いたしました。そこで示された改善点や課題については真摯に受け止め、既に早急な改善・修正を行っております。今後も評価結果を運営に反映させることで、利用者・ご家族の皆様により質の高いサービスを提供するとともに、透明性の高い事業運営の推進に全力で取り組んでまいります。

令和6年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
営業日数(日)	26	27	25	27	27	26	27	26	25	24	24	26	310
延人数(人)	456	462	441	521	495	528	561	524	525	450	423	490	5876
実人数(人)	52	54	53	56	56	58	62	65	60	56	56	57	685
平均利用者数(人)	17.5	17.1	17.6	19.3	18.3	20.3	20.8	20.2	21.0	18.8	17.6	18.8	18.9
利用率(%)	67.5	63.4	70.6	71.5	67.9	78.1	77.0	77.5	84.0	78.1	73.4	72.5	73.4

行事名	実施期間	参加延人数
外出(菖蒲)	令和7年 6月 5日～ 6月 7日	19名
夏祭り	令和7年 8月 19日～ 8月 21日	57名
運動会	令和7年 10月 20日～ 10月 22日	66名
外出(紅葉)	令和7年 11月 17日～ 11月 27日	26名
クリスマス会	令和7年 12月 22日～ 12月 25日	80名

通所型サービスB事業(ぽかぽか庵)

当事業におきましては、リハビリ体操やレクリエーション、そして食事の提供を通じて、高齢者の社会的孤立の防止や閉じこもり予防、心身の健康維持と社会参加を促進することを目標に運営してまいりました。

昨年度の取り組みが利用者様から大変ご好評をいただいたことを受け、今年度はより多くのニーズにお応えできるよう、定員を12名から15名へと拡充いたしました。その結果、別表の通り1回あたりの平均利用人数も、昨年度の8.5名から12.2名へと着実に増加しております。これは、地域における「通いの場」としての役割がより一層深まっている結果であると捉えております。

事業の実施にあたっては、初めての方でも馴染みやすい温かな雰囲気づくりを重視し、多様なプログラムを展開いたしました。体操で健やかに体を動かし、仲間と共に食卓を囲む時間は、利用者様の生活に活気をもたらすだけでなく、地域社会との大切な接点となっております。また、集団での活動に加え、日々の会話の中から個別の相談や生活支援といった細やかなサポートを継続したことで、一人ひとりの安心感のある暮らしを支えることにつながりました。

今後も、利用者数の増加に伴う安全管理を徹底しつつ、高齢者が住み慣れた地域でいきいきと自立した生活を継続できるよう、より充実した交流の場を提供し、地域福祉の向上に努めてまいります。

年 度	開催回数	利用延人数	1 回平均人数
令和 6 年度	102 回	865 人	8.5 人
令和 7 年度	104 回	1,286 人	12.2 人

居宅介護支援事業所

当事業所におきましては、「住み慣れた地域で、その人らしい暮らしを継続できる」ことを最優先課題とし、利用者様お一人おひとりの意思を尊重した利用者本位のケアプラン作成に尽力してまいりました。

日々の支援におきましては、単なるサービスの調整に留まらず、ご本人が望む生活の実現に向けて、主治医や訪問看護、介護サービス事業所等との多職種連携を強化し、地域全体で支える包括的な支援体制の構築に努めました。特に、変化する利用者様の状態に迅速に対応できるよう、密な情報共有と柔軟なプラン見直しを徹底してまいりました。

また、サービスの質の担保と向上のため、介護支援専門員の専門性向上を目的とした研修への積極的な参加を推進いたしました。あわせて、事業所内での相互支援体制の強化を図ったことで、複雑化する困難事例に対しても、組織として日々の気づきを共有し合い、迅速かつ適切に対応できる環境が整いました。

これらの取り組みを通じ、地域に根差した質の高いケアマネジメントサービスを提供し、利用者様が住み慣れた環境で安心して自分らしい生活を送れるよう、引き続き体制の充実に努めてまいります。

年度	ケアプラン		ケアプラン(予防)	
	件数	月平均	件数	月平均
令和 6 年度	377 件	31.4 件	42 件	3.5 件
令和 7 年度	313 件	26 件	36 件	3 件

在宅介護支援センター

当センターにおきましては、地域にお住まいの高齢者の皆様が、住み慣れた環境で安心して自分らしい生活を継続できるよう、生活の質を支える多角的な支援を展開してまいりました。

具体的には、要介護認定の申請代行をはじめ、住宅改修や福祉用具の導入支援等、在宅生活の基盤を整えるためのサポートに注力いたしました。適切な情報提供と迅速な申請支援を徹底したことで、利用者様が必要なサービスへ円滑に繋がる体制の維持に努めました。

また、八幡市からの委託事業である配食サービスにおきましては、適切なアセスメントに基づいた申請支援を行うとともに、お届けの際の安否確認を通じて、日々の安全を見守る役割を果たしました。単なる食事の提供に留まらず、直接的な対話を通じて心身の状態を把握し、地域における「見守りの目」としての機能を継続してまいりました。

今後も、地域の高齢者やご家族の不安に寄り添い、迅速かつ適切な支援を行うことで、地域全体で支え合う安心の拠点として、その役割を全うしてまいります。

相談業務実施状況

年 度	年 間	月平均	備考
令和 6 年度	51 件	4.25 件	
令和 7 年度	31 件	2.5 件	

訪問調査等実施状況

年 度	訪問調査件数	福祉用具購入支援数	住宅改修支援数
令和 6 年度	36 件	3 件	22 件
令和 7 年度	24 件	2 件	18 件

配食サービス関係

年 度	八幡市委託分(昼食)	京都八勝館独自サービス (昼食・夕食)
令和 6 年度	2,883 人	414 食
令和 7 年度	1,923 人	395 食

調理室

当部門におきましては「給食運営の効率化」と「衛生管理の徹底」、そして「多職種連携による安定した運営基盤の構築」を重点目標として掲げ、取り組んでまいりました。

まず給食システムにつきましては、計画通り従来の調理方式から「クックチル方式」への移行を完了いたしました。これにより、調理業務の平準化と、より安定的な給食提供体制を確立することができました。

次に、調理室内の環境整備につきましては、レイアウト変更を完遂いたしました。これまで混在しがちであった「盛付スペース(清潔作業区域)」と「洗浄スペース」を明確に分離したことで、より高度な衛生管理が可能な作業環境を構築いたしました。

また、運営面における大きな成果として、各事業所(施設・在宅)との強固な連携体制が挙げられます。現在、月一回の給食会議等を通じた密な情報共有を継続して行っております。現場の声を迅速に献立や調理方法に反映させる仕組みを整えたことで、利用者様お一人おひとりの状態に合わせた、安心・安全な食事提供の維持に努めてまいりました。

理事・監事・評議員等名簿

(令和 8 年 3 月 31 日現在)

役職名	氏 名	就任年月日
理事長	遠州 伸高	令和 7 年 6 月 18 日
業務執行理事	河本 直樹	〃
〃	中川 晶勝	〃
理事	佐々木 貴昭	〃
〃	藤井 さよ子	〃
〃	松田 克也	〃

役職名	氏 名	就任年月日
監事	大高 俊生	令和 7 年 6 月 18 日
〃	山本 政名	〃

役職名	氏 名	就任年月日 ※任期 4 年
評 議 員	北村 和夫	令和 7 年 6 月 18 日
〃	梶原 寛之	〃
〃	波田 容子	〃
〃	松田 千登勢	〃
〃	遊佐 勝彦	〃
〃	高桑 勝	〃
〃	林村 涼	〃